

教えて!

赤メガネ先生

白石封筒工業(株) 代表取締役
大阪府印刷工業組合
サステナビリティ委員長

白石 陽一
Shiraishi Youichi

「21世紀のいい会社」って
どんな会社ですか?



イシューキュレーター
特定非営利活動法人
チュラキューブ 代表理事
大阪国際工科専門職大学
工科学部 准教授

中川 悠
Nakagawa Haruka

僕が山本社長に初めてお会いしたのは、約10年前。当時は業績向上に尽力されていましたが、その後、CSRのツースター認定を取得されるまでに大きな変革を遂げられました。今回、社員の変化について伺ったところ、「以前は仕事をやらされている感が強かったが、今では自発的に取り組む姿勢が見える」「積極的に意見を出し、社内の風通しも良くなった」「女性社員が増え、職場が多様化した」との回答をいただきました。このように、確かな変化を実感できることこそ、企業の成長を示す証ではないでしょうか。



今回、山本社長からCSRについて多く学ばせていただきました。CSRは社会や地域に対して貢献する取り組みであり、それが企業の信頼を高め、社員のやる気を引き出す要素であることを実感。そのなかで社員が自ら考え、行動できる環境を整えたことで、会社全体が確実に変わっていくことは、本当に素晴らしいことだと思いました。僕も、自分の会社を通して社会に貢献しつつ、社員が成長できるようなCSR活動をぜひ取り入れていきたいと思っています。



Vol.4

株式会社 美生社
山本素之社長にインタビュー

当たり前のことを、当たり前。
明るい未来を切り拓く社内改革で
CSR ツースター認定取得

CSR = Corporate Social Responsibility
(企業が社会や環境に及ぼす影響に対して責任ある行動を果たすこと)

株式会社美生社 代表取締役社長

山本 素之さん
Yamamoto Motoyuki



株式会社美生社が掲げる目標は、「立派な社会人を育て、立派な会社をつくる」こと。

この根底に流れるのは、「当たり前のことを、当たり前に行う」というシンプルながら強い信念です。

日々、CSRの重要性を深く理解し、社員一人ひとりの自主性を尊重したり、

小さな気づきを改善することで、着実に成長を遂げてきました。

その結果、CSR認定制度においてツースター認定を取得するまでに至ったのです。

今回はこれまでの歩みと今後の展望について、山本素之社長に伺いました。

CSR認定に挑み、誇りある企業へと成長する

山本：私が社長に就任した当時、当社はおもに下請け業務を行っており、厳しい納期や品質、価格の要求に応えることに追われる日々でした。社員たちは、目の前の仕事をこなすのに手一杯で、残業が続く毎日。私自身も、効率的で利益追求型の経営を優先していました。

そんななか、このままで本当に良いのだろうか? と思い、社会情勢が刻々と変わっていくなかで会社が果たすべき社会的な役割について、真剣に考えるように

なったのです。

同じ頃、社員たちからも「自分たちの仕事に社会にどのように貢献しているのかが見えにくい」という声が上がようになりました。この声は、私の心に深く響き、会社の方向性を見直すきっかけとなったのです。

そして2015年、私は「立派な社会人になるために、立派な会社にする」という思いのもと、全印工連CSR認定(※1)取得を目標に、新たなビジョンを掲げました。

それは、たんなる利益追求から一歩進み、社員一人ひとりが誇りを持てる企業を目指すための重要な第一歩でした。これまでも印刷の品質向上を目指し、2012年にJapan Colorの認証(※2)をクリアしたり、環境においても2014年にはグリーンプリンティングの認定(※3)を受けるなど、多方面で努力を重ねてきましたが、CSR認定取得への挑戦は、「地域社会への貢献」や「情報の安全管理」を具体的に実践することが大きな課題となりました。

自社の魅力を発信することで、未来の人材が集まる

山本：新入社員の面接では、「CSRを知っていますか?」と尋ねます。SDGsという言葉は浸透していますが、CSRを理解している人はまだ少ないと感じています。そこで私は、ひとつの例として、公園やその周辺の清掃活動など、当たり前の取り組みを継続して行うことがCSR活動につながると説明します。同時にCSRのチェックリスト(※4)を見せて理解を深めてもらっています。

そのチェックリストの2には「雇用と就労の安定と改善」がありますが、以前、当

社ではハローワークに求人を出しても、なかなか理想の人材に巡り合えませんでした。そこでただ待つのではなく、自ら動くことを決意。若い世代に当社の魅力を伝えるため、高校や専門学校に足を運びました。なかでも深いつながりのある大阪府立今宮高等学校の学生たちには、会社見学として半日間、機械を止めてグラフィックデザインやオンデマンド印刷を体験してもらう場を提供しています。一般的に印刷会社は古いイメージを持たれがちですが、実際に見学した学生たちは

「印刷会社のイメージが変わりました。若い社員が多く、みんな笑顔で働いていて驚きました」と話してくれるようになりました。

この活動は社員たちにも素晴らしい影響を与え、学生たちが来る日には自然と社内に明るい雰囲気生まれ、活気づくようになりました。昨年からはペーパーサミット(※5)に高校生を招き、未来のクリエイターたちと共に作品を作る場を提供しています。



ツースター認定企業へ。 与えられる仕事から、創り出す仕事に

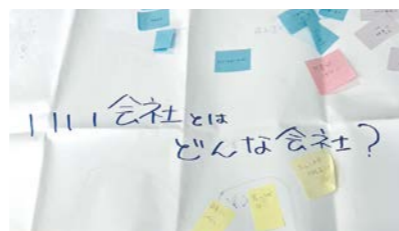
山本：さきほど地域の清掃活動もCSRの一環とお話しましたが、私たちは会長の代から長きにわたり地域の清掃活動を続けています。これは、地域への恩返しとともに、この地に根ざした企業としての姿勢を示す重要な取り組みのひとつ。自分たちの事業を展開している場所をきれいに保つことは当然であり、清掃活動を通じて地域住民との交流も深まり、会社全体が社会の一員としての自覚を強めています。

もちろん、社内環境の整備にも注力しています。社員が快適で効率よく働けるよう、掃除を徹底し、必要なものを使いやすい場所に配置したり…。また、壁面を活用して情報を見やすく共有するなど、細部にわたる工夫を行い、作業効率やコミュニケーションの向上を図っています。

このように、清掃活動から環境技術の導入、さらには社内環境の整備に至るまで、多角的にCSRに取り組むことで、社員の意識に大きな変化が生まれました。かつては「与えられた仕事をこなす」ことに重点を置いていた社員たちも、今では自ら考え、地域や環境、そして社会にどのように貢献できるかを意識するようになり、「創り出す仕事」へと意識が改革されました。2021年には、当社の取り組みが評価され、CSR認定制度において、ツースター認定企業として登録されました。CSRは単なる利益追求の手段ではなく、企業が社会と深くつながり、持続可能な未来を築くための重要な柱。私たちはこれからもCSR活動を積極的に推進し、企業として成長しながら、社会への貢献をさらに高めていくことを目指しています。



男性社員が草花を育て、踊り場を利用してガーデニングスペースを設置。社員みんなの癒しの場となり、好評を得ている！



社員が会社の良いところや改善点を意見交換し、付箋に書いて大きな紙に貼り、みんなで確認。



社員がブルトップやペットボトルのキャップを集め、それをリサイクルして、社会貢献活動に役立てている。

社内の環境は？ 働きやすい？ 女性社員に聞きました！

私が入社した4年前と比べて、社員それぞれが自分の意見を言うようになったと感じます。いやなところ？ 正直、思いつきません。特に不満もなく、社員の3分の1が女性ということもあり、働きやすい環境だと感じています。

入社4年目 森中さん



もともと印刷に興味があったので、それが美生社で働くうえで一番の魅力！ 私は営業を担当していますが、仕事はそれだけに限らず、デザインや納品、内職を手伝うなど、さまざまな業務に関わることができることにもやりがいを感じます。

入社3年目 林さん



※1 CSR認定

「全日本印刷工業組合連合会」(略称:全印工連)が実施しているCSR(企業の社会的責任)に関する認証制度。ワンスター認定(標準認定)、ツースター認定(上位認定)、スリースター認定(最上位認定)の3種類のCSR認定マークがある。

※3 グリーンプリンティングの認定

印刷業界における環境保護のための取り組みを評価し、環境に配慮した印刷を行っていることを認証する制度。

※4 CSRのチェックリスト

QRコードからご覧いただけます。

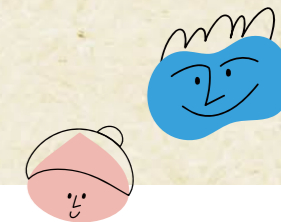


※2 Japan Colorの認証

日本国内の印刷業界において色再現の基準を定めた規格に基づき、正確で安定したカラーマネジメントを行っていることを認証する制度。

※5 ペーパーサミット

紙や印刷の魅力や楽しさを伝え、新たな発見や体験を提供することを目的とした大阪府印刷工業組合が主催するイベントです。



大青協 8月度定例会 + 暑気払い

8月6日(火)、天満橋の志乃亭にて令和6年8月度の大阪青年印刷人協議会定例会が開催されました。議題の「近畿ブロック協議会」「キックオフコンベンション」「交流イベント」について、情報共有と意見交換が行われました。

「近畿ブロック協議会」は11月16日(土)に京都J Aビルにて開催されることが決まりました。セミナー会場と懇親会の手配は京都青年印刷人月曜会のメンバーが調整中で、大青協としては協議会の運営と集客で尽力するよう呼びかけられました。

「キックオフコンベンション」については来年1月25日(土)に難波付近で開催を予定しています。セミナーの内容について講師と調整しているところで、セミナー会場は古民家を再利用したレトロモダンなお店で調整中です。

「交流イベント」については9月7日(土)に信太山青少年活動センターにてデイキャンプを行う予定で、当日の配車などについて打ち合わせをしました。このイベントはメンバーが親睦を深めるだけでなく、まだ大青協のことを知らない若手に参加してもらって、大青協をもっと知ってもらい興味を持ってもらう趣旨もあります。

「依頼報告事項」については、青印クより9月28日(土)大阪大会の案内、9月27日(金)にスイスホテルで行われる全印工連フォーラムの案内、9月25日(水)に開催される印刷経営革新塾の説明会の案内がありました。

会議の後は暑気払いとして懇親会が行われ、いつもどおり楽しい時間を過ごしました。今回は福島支部からオブザーバーが参加しており、「最高です」と大青協への加入を即決していただきました。新たな仲間が増えてますます大青協が活気づいていくと思えました。

(報告/青葉印刷(株) 依藤哲也)

全国青年印刷人協議会
全国青年印刷人協議会
近畿ブロック協議会

11月16日 sat
13:00 START

@ 京都 JA ビル
201+202 会議室
京都府京都市南区東九条西山王町 1
懇親会 18:00 ~ : 創作個室居酒屋すざうら 京都駅前七条店

metamorphosis / successor venture 2024-2025 ALL JAPAN YOUTH PRINTING ASSOCIATION

2024年近畿ブロック協議会 告知案内



おいしい料理に会話ははずみ、とても盛り上がった暑気払いになりました！

